

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

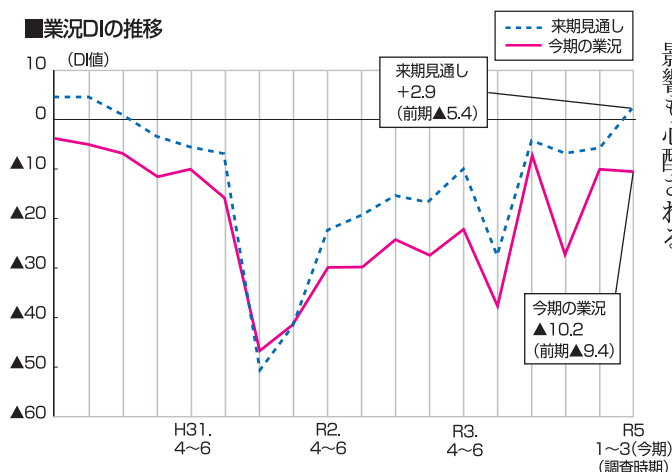
DI値	▲25P以下	▲25～ ▲10P未満	▲10～ 10P未満	10～ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和5年1～3月
回答企業数 150社

■業況DIの推移



【来期(令和5年4～6月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、2・9
(前期時の来期見通し(▲5・4)
と比較してプラス8・3ポイント)
と改善。コロナ禍の落着きに伴う外
食や旅館・ホテル等観光関連産業の
好転もあり改善が期待されるが、依
然として先行き不透明な物価高騰の
影響も心配される。

■産業別DI値表

		前期 [R4.10～12] (A)	今期 [R5.1～3] (B)	増減 (B) - (A)	来期見通し [R5.4～6]
業況	全産業平均	▲9.4	▲10.2	▲0.8	2.9 →
	製造業	▲8.8	▲23.5	▲14.7	0.0 →
	建設業	▲7.7	▲19.2	▲11.5	▲20.8 ↘
	卸売業	▲25.0	▲23.8	1.2	5.0 →
	小売業	▲13.3	▲3.1	10.2	3.3 →
	サービス業	▲2.9	▲5.9	▲3.0	22.6 ↗
売上額	全産業平均	▲6.0	▲3.4	2.6	10.4 ↗
	製造業	▲5.9	▲5.9	0.0	6.1 →
	建設業	▲14.8	▲25.9	▲11.1	▲7.7 →
	卸売業	▲4.0	0.0	4.0	19.0 ↗
	小売業	26.7	12.5	▲14.2	21.9 ↗
	サービス業	17.1	17.6	0.5	12.5 ↗
資金繰り	全産業平均	▲12.1	▲11.0	1.1	1.4 →
	製造業	▲17.6	▲21.2	▲3.6	▲3.1 →
	建設業	▲7.4	▲22.2	▲14.8	▲18.5 ↘
	卸売業	▲20.0	▲4.8	15.2	▲4.8 →
	小売業	▲17.9	▲20.0	▲2.1	10.3 ↗
	サービス業	0.0	▲5.9	▲5.9	18.8 ↗
採算	全産業平均	▲12.6	▲15.8	▲3.2	▲2.1 →
	製造業	▲11.8	▲23.5	▲11.7	▲3.0 →
	建設業	▲33.3	▲25.9	7.4	▲15.4 ↘
	卸売業	▲28.0	▲38.1	▲10.1	▲4.8 →
	小売業	0.0	▲3.2	▲3.2	0.0 →
	サービス業	▲2.9	▲3.0	▲0.1	9.7 →

今期業況はマイナス幅が拡大。

来期は物価高騰への懸念があるものの持ち直しへ期待。

【今期(令和5年1～3月期)の業況】

全産業の業況DI値は、▲10・2
(前期比マイナス0・8ポイント)
とマイナス幅が拡大。前期では外出
機会の増加に伴う個人消費拡大等の
牽引により改善がみられたものの、
今期業況は物価高騰の影響もありマ
イナス幅の拡大に転じた。

【来期(令和5年4～6月期)の見通し】

全産業の来期見通しは、2・9
(前期時の来期見通し(▲5・4)
と比較してプラス8・3ポイント)
と改善。コロナ禍の落着きに伴う外
食や旅館・ホテル等観光関連産業の
好転もあり改善が期待されるが、依
然として先行き不透明な物価高騰の
影響も心配される。

【今期の売上額・資金繰り・採算】

全産業の売上額DI値は、▲3・
4 (前期比プラス2・6ポイント)
となり、特に卸売業は前期からプ
ラス4・0ポイントの回復となった。
小売業については前期の大幅な回復
から一転減少となっている。

全産業の資金繰りDI値は、▲

11・0 (前期比プラス1・1ポイン

ト)となり、卸売業で改善が見られ

た。

全産業の採算DI値は、▲15・8

(前期比マイナス3・2ポイント)
となり、建設業以外は悪化した。

【回答企業のコメント】

・需要の回復にともない労働力不足
が顕著になってきており、当面は
人材確保が課題となっている。(製
造)

・売上高の減少と材料代の高騰が重
なったことで収益が悪化した。(建
設)

・実店舗への来店者数は激減してい
る。その一方でネット販売は大き
く増加傾向にある。市場のあり方
が変わってきていることへの注意
が必要だ。(小売)